令和八年十一月二十六日

第四十二回産業功労者表彰 事績概要

三重県

矢田和夫（やだかずお）

鈴鹿市



事績概要

氏は昭和四十八年より漁業に従事し、地域漁業の振興に尽力してきた。黒のり養殖では、漁場環境の変化を的確に捉え、養殖網の張り込み時期の見直しや改良品種の導入を進めて品質と生産性の向上に努めるとともに、幅広い用途に活用できるバラ乾のりの製造と普及にも取り組み、地域を県内有数の産地として発展させた。

また、イワシ類やアサリ類について、自主的な資源管理や漁場環境の改善に取り組み、資源の回復と漁業経営の安定に貢献した。

さらに、氏は鈴鹿市漁業協同組合の代表理事組合長として地域漁業を牽引する一方、三重県漁業協同組合連合会理事や三重海区漁業調整委員会会長として県全体の水産業の振興および秩序の維持にも尽力した。

このように、氏の地域水産業の振興と発展に寄与した功績は誠に顕著である。

北川俊一（きたがわしゅんいち）

伊賀市



事績概要

氏は、昭和四十八年から農業に従事しながら、三重県経済農業協同組合連合会（現　全国農業協同組合連合会三重県本部）において、農畜産物のブランド化や販売促進に努め、平成十七年には本部長に就任した。

平成二十八年から伊賀北部農業協同組合、平成三十年からは伊賀ふるさと農業協同組合の代表理事組合長を務め、伊賀米振興協議会会長としてリーダーシップを発揮し、産地全体の品質管理能力や食味の向上に取り組んだことにより、伊賀米の最高評価獲得に貢献した。

また、伊賀ブランドであるアスパラガスの産地維持、拡大を図り、伊賀地域の農業発展に寄与した。

さらに、新規就農者の育成や担い手の確保に尽力したほか、農産物直売所の開設を主導し、地域の農産物の販路拡大や雇用創出をもたらした。

このように、氏の地域農産業の振興と発展に寄与した功績は誠に顕著である。

中島伸子（なかじまのぶこ）

津市



事績概要

氏は、井村屋グループ株式会社で営業、支店運営および経営に従事し、主力商品「あずきバー」などの価値向上や新商品の開発、市場開拓を推進し、井村屋ブランドの確立に尽力した。伝統を守りつつ時代のニーズに応じた商品展開を進め、食品産業の活性化と県内産業発展に大いに貢献した。

経営トップとして「人材の人財化」「一人の百歩より百人の一歩」等を掲げ、社内研修の充実や組織横断的な連携を進め、次代の人材育成にも尽力した。

また、同社初の女性社長・会長への歩みは、女性活躍のロールモデルとして、広く社会へ影響を与えた。

さらに、日本の伝統食材「あずき」の魅力を発信し食育活動や地域との連携を通じて、食文化の継承と普及に尽力した。

このように、氏の地域産業の振興と発展に寄与した功績は誠に顕著である。

水谷康朗（みずたにやすあき）

桑名市



事績概要

氏は、株式会社水谷精機工作所の代表取締役社長として、精密加工技術の向上と中小製造業におけるＤＸ推進を牽引し、業界の発展に寄与している。

特に、ＪＡＸＡ等の研究においてロケットエンジン部品の製作を担い、宇宙関連技術の進展に貢献したほか試作レスを実現する「バーチャルマイスター」や遠隔支援システム「リモートマイスター」の開発は、先進的ＤＸ事例として高い評価を受けている。

また、桑名市の国重要文化財「六華苑」を三次元データ化し、「バーチャル六華苑」として無償公開するなど、地域文化資産の保存と情報発信、観光振興に寄与している。

さらに、三重県中小企業団体中央会理事として、資金調達環境の改善を実現するなど、地域中小企業の経営の安定に貢献している。

このように、氏の地域産業の振興と発展に寄与した功績は誠に顕著である。

中川廣一（なかがわひろいち）

津市



事績概要

氏は、株式会社美杉リゾートの取締役副社長などを務め、いち早くインバウンド事業に取り組み、台湾・香港・シンガポール等のアジア市場に向けて三重県および美杉地域の観光発信と誘客促進に尽力した。

さらに、関係者と連携して伊賀地域の忍者文化と美杉地域の観光資源を組み合わせた広域周遊型商品「忍者パック」を造成し、海外市場に展開するなど、地域間を超えたインバウンド観光の振興に大きく貢献した。

加えて、人口減少等の課題を抱える美杉地域において、観光拠点の維持・発展に尽力し、地域の交流人口の拡大やにぎわいの創出、地域経済の活性化にも貢献している。また、宿泊サービスだけでなく、美杉地域独自の文化を活用した体験メニューを提供するなど、地域文化の振興にも大きく貢献してきた。

このように、氏の地域産業の振興と発展に寄与した功績は誠に顕著である。

伊藤公智

津市



事績概要

氏は、将来の建築士不足への懸念から、幼少期より建設業に親しみを感じてもらうため、幼稚園等と連携して木造の小さな「おうち」をつくる事業を継続的に実施し、地域に根差した活動として定着させている。

また、木材利用促進を提唱し、「みえの木建築コンクール」を企画、運営するなど、環境保全と地域経済の活性化を両立させる先導的な役割を果たしている。

さらに、地震発生時には自ら被災建築物応急危険度判定活動に従事するとともに、応急危険度判定士の資格を有する会員が多く在籍する団体の長として、強力なリーダーシップを発揮した。平時においても、毎年実践的な訓練を企画、実施するなど、地域防災体制の強化に尽力している。

このように、氏の地域産業の振興と発展に寄与した功績は誠に顕著である。